

第3章

パラリンピアンに対する社会的認知度調査

調査概要

(1) 調査目的

リオ 2016 パラリンピック（以下、リオ大会）の開催、東京 2020 パラリンピック（以下、東京大会）の開催を控え、パラリンピアンに対する社会的認知度を測定する。前回調査（2014 年。平成 26 年度実施）との比較を行い、変化、傾向、要因などを調査する。

(2) 調査内容

主な調査内容は以下のとおりである。

- ・パラリンピアンの社会的認知度
- ・リオ大会の視聴状況
- ・日常生活におけるスポーツ環境

(3) 調査対象

全国の市町村に在住する 20 歳以上の男女

(4) 調査期間

2016 年 11 月 24 日（木）～2016 年 11 月 26 日（土）

(5) 調査方法

インターネットによるウェブ調査
当財団調べ（マクロミルモニタを利用）

(6) 回答結果

東日本エリア/男性/20 代	103	西日本エリア/男性/20 代	103
東日本エリア/男性/30 代	103	西日本エリア/男性/30 代	103
東日本エリア/男性/40 代	103	西日本エリア/男性/40 代	103
東日本エリア/男性/50 代	103	西日本エリア/男性/50 代	103
東日本エリア/男性/60 代以上	103	西日本エリア/男性/60 代以上	103
東日本エリア/女性/20 代	103	西日本エリア/女性/20 代	103
東日本エリア/女性/30 代	103	西日本エリア/女性/30 代	103
東日本エリア/女性/40 代	103	西日本エリア/女性/40 代	103
東日本エリア/女性/50 代	103	西日本エリア/女性/50 代	103
東日本エリア/女性/60 代以上	103	西日本エリア/女性/60 代以上	103

回答者数：2,060 人

(7) 調査報告並びにトピック内に示した図表の注意事項

- ・クロス集計においては、原則 x2 検定分析による有意差検定で処理して、有意水準 1%を▲▼、5%を△▽、10%を∴∴∴で表示するとともに、有意差が認められない場合には非表示とした。

要約

- ◆ 最も知られている選手は「国枝慎吾」(34.0%)で、ついで、「上地結衣」(14.8%)、「成田真由美」(10.5%)、「一ノ瀬メイ」(8.3%)、「辻沙絵」(6.1%)であった。
- ◆ 実施競技の正答率が高かったのは「国枝慎吾(車いすテニス)」(79.2%)で、ついで、「成田真由美(水泳)」(60.8%)、「上地結衣(車いすテニス)」(56.4%)、「道下美里(陸上競技)」(51.4%)、「別所キミエ(卓球)」(44.6%)であった。
- ◆ リオ大会の観戦形態は、「テレビのニュース番組で観た」が46.8%で最も多く、ついで、「テレビの中継番組を観た」(30.3%)、「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」(13.0%)であった。いずれかの観戦形態で、観戦した競技は、「水泳」(41.1%)が最も多く、ついで「車いすテニス」(40.1%)、「陸上競技」(32.6%)であった一方、「わからない」が15.2%であった。
- ◆ リオ大会を観戦した感想は、「アスリートとして非常に優れていると感じた」(69.5%)が最も多く、ついで、「障害の有無にかかわらず、スポーツは一緒にできると感じた」(65.0%)、「障害者への偏見がなくなった、身近な存在に感じた」(61.7%)であった。「2020年東京パラリンピックを直接観戦したい」は35.2%であった。
- ◆ 「自分以外の身近な人に障害者がいる」と回答した人では、「テレビのニュース番組で観た」「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」「(テレビやインターネットの)その他の方法で観戦した」が有意に高かった。
- ◆ 「自分以外の身近な人に障害者がいる」と回答した人では、「障害者スポーツを直接観戦したい」「障害者スポーツのボランティアをしたい」「2020年東京パラリンピックにボランティアとしてかかわりたい」「アスリートとして非常に優れていると感じた」「障害者への偏見がなくなった、身近な存在に感じた」「障害者と話がしたい、もっと知りたいと思った」が有意に高かった。
- ◆ 日常生活の中で障害のある人がスポーツを行う光景をみたことがあるかについて、みたことがある人の方が、パラリンピックをテレビ・インターネットで観戦した人が多く、「テレビのニュース番組で観た」以外の項目で有意差がみられた。

調查報告



1. パラリンピアン認知度

調査対象とした40名のなかで、最も知られている選手は、「国枝慎吾」であり、「知っている」「聞いたことがある」を合わせると、約3割であった(図表3-1)。ついで、「上地結衣」(知っている:6.8%、聞いたことがある:8.0%)、「成田真由美」(知っている:5.4%、聞いたことがある:5.1%)、「一ノ瀬メイ」(知っている:1.9%、聞いたことがある:6.4%)、「辻沙絵」(知っている:2.4%、聞いたことがある:3.7%)だった。

前述の「知っている」「聞いたことがある」と答えた回答者を対象に実施競技についてたずねたところ、正答率は以下のとおりであった。もっとも正答率が高かったのは、「国枝慎吾(車いすテニス)」の79.2%であった。ついで、「成田真由美(水泳)」(60.8%)、「上地結衣(車いすテニス)」(56.4%)、「道下美里(陸上競技)」(51.4%)、「別所キミエ(卓球)」(44.6%)であった。

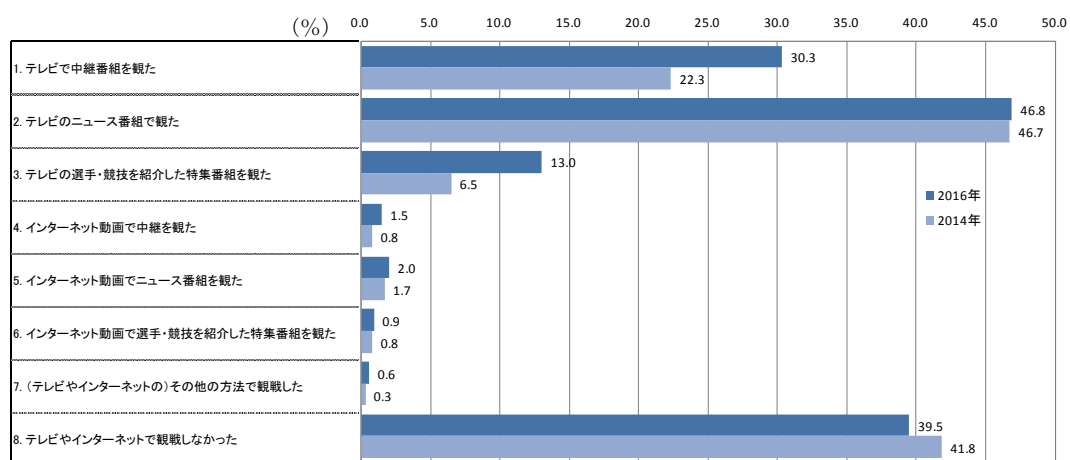
							(%)
NO	氏名	全体(N)	知っている	聞いたことがある	知らない	競技名	正答率
1	国枝 慎吾(くにえだ しんご)	2,060	20.9	13.1	66.0	車いすテニス	79.2
2	上地 結衣(かみじ ゆい)	2,060	6.8	8.0	85.2	車いすテニス	56.4
3	成田 真由美(なりた まゆみ)	2,060	5.4	5.1	89.5	水泳	60.8
4	一ノ瀬 メイ(いちのせ めい)	2,060	1.9	6.4	91.7	水泳	32.4
5	辻 沙絵(つじ さえ)	2,060	2.4	3.7	93.9	陸上競技	40.8
6	山本 篤(やまもと あつし)	2,060	1.4	4.2	94.4	陸上競技	22.6
7	池崎 大輔(いけざき だいすけ)	2,060	1.2	4.0	94.8	ウィルチェアラグビー	17.8
8	別所 キミエ(べっしょ きみえ)	2,060	1.8	2.6	95.5	卓球	44.6
9	藤本 怜央(ふじもと れお)	2,060	0.8	3.4	95.8	車椅子バスケットボール	14.9
10	山田 拓朗(やまだ たくろう)	2,060	1.1	3.1	95.9	水泳	18.8
11	廣瀬 順子(ひろせ じゅんこ)	2,060	1.3	2.5	96.2	柔道	23.1
12	木村 敬一(きむら けいいち)	2,060	1.4	2.3	96.3	水泳	38.2
13	藤井 新悟(ふじい しんご)	2,060	1.0	2.7	96.3	車椅子バスケットボール	14.5
14	鈴木 徹(すずき とおる)	2,060	0.7	2.9	96.4	陸上競技	9.5
15	池 愛里(いけ あいり)	2,060	0.9	2.6	96.5	水泳	19.2
16	道下 美里(みちした みさと)	2,060	1.9	1.6	96.5	陸上競技	51.4
17	正木 健人(まさき けんと)	2,060	0.9	2.5	96.6	柔道	26.8
18	浦田 理恵(うらた りえ)	2,060	0.8	2.4	96.8	ゴールボール	18.5
19	廣瀬 誠(ひろせ まこと)	2,060	0.5	2.6	96.9	柔道	20.3
20	瀬立 モニカ(せりゅう もにか)	2,060	0.8	2.2	96.9	カヌー	7.9

図表3-1 パラリンピアン認知度と正答率(上位20位)

2. パラリンピックの観戦

1) 観戦形態

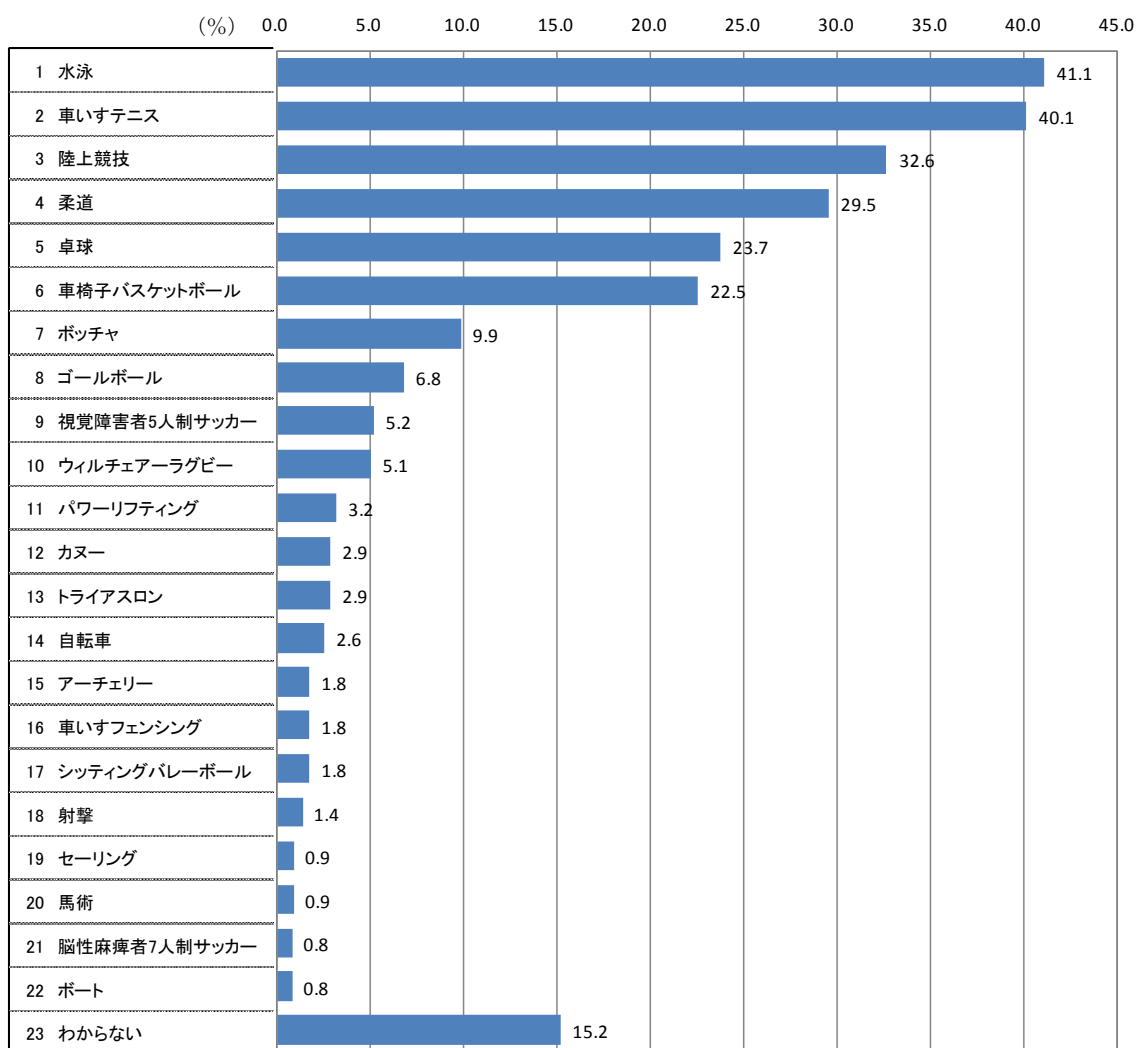
リオ大会をテレビやインターネットで観戦したかについてたずねたところ、「テレビのニュース番組で観た」が46.8%で最も多く、「観た」と答えたなかで多かったのは、「テレビで中継番組を観た」(30.3%)、「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」(13.0%)であった(図表 3-2)。前回調査と比べると、「テレビで中継番組を観た」「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」が増加したのが特徴的であった。「テレビやインターネットで観戦しなかった」は、前回調査(2014年。平成26年度実施)と同様に約4割であった。



図表 3-2 パラリンピックの観戦形態

2) 観戦種目

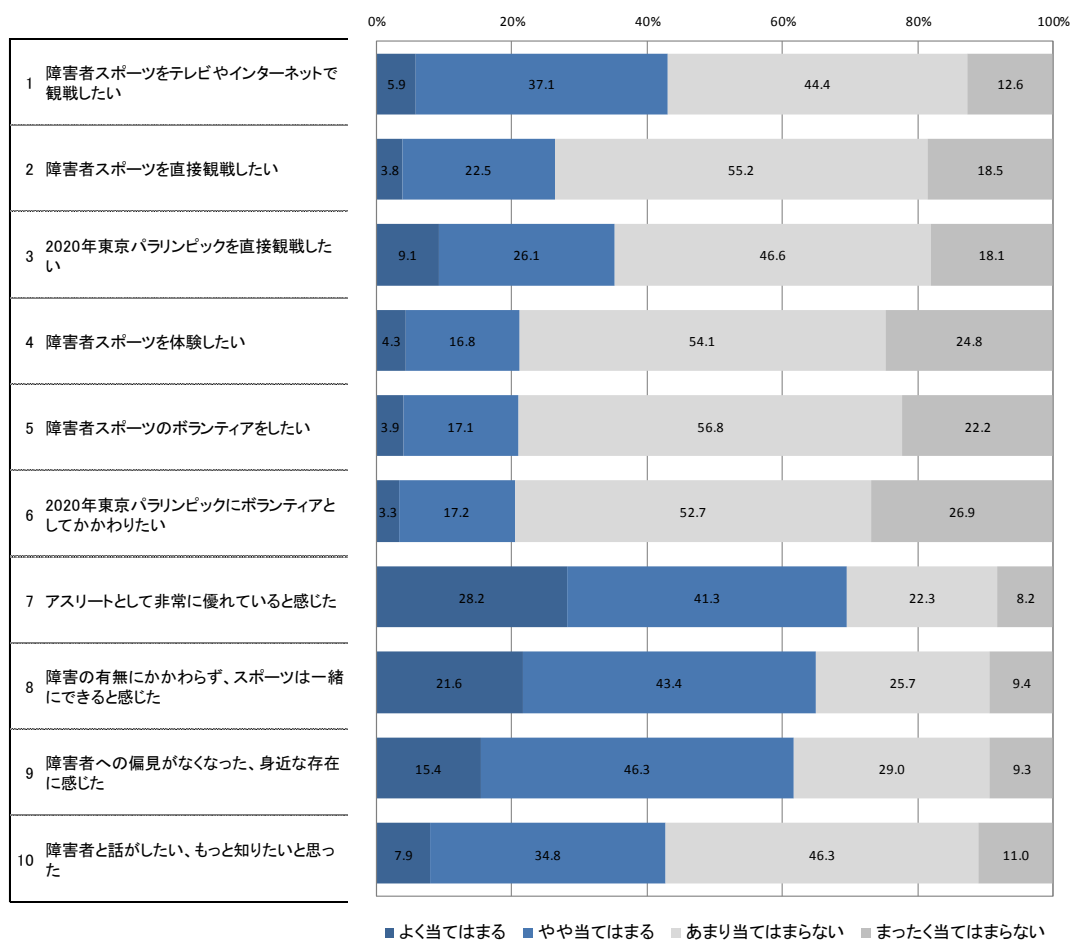
テレビやインターネットでリオ大会を観戦した人のうち、観戦競技についてたずねたところ、「水泳」が41.1%で最も多く、ついで、「車いすテニス」(40.1%)、「陸上競技」(32.6%)、「柔道」(29.5%)、「卓球」(23.7%)であった(図表3-3)。「わからない」が15.2%であった。



図表 3-3 リオ 2016 パラリンピックの観戦種目

3) 観戦後の意識変容

テレビやインターネットでリオ大会を観戦した人のうち、観戦した感想についてたずねたところ、最も多かったのが「アスリートとして非常に優れていると感じた」であった(図表 3-4)。「よく当てはまる」(28.2%)と「やや当てはまる」(41.3%)を合わせると約7割であった。ついで、「障害の有無にかかわらず、スポーツは一緒にできると感じた」の65.0% (よく当てはまる：21.6%、やや当てはまる：43.4%)、「障害者への偏見がなくなった、身近な存在に感じた」の61.7% (よく当てはまる：15.4%、やや当てはまる：46.3%)であった。「2020年東京パラリンピックを直接観戦したい」は35.2% (よく当てはまる：9.1%、やや当てはまる：26.1%)であった。

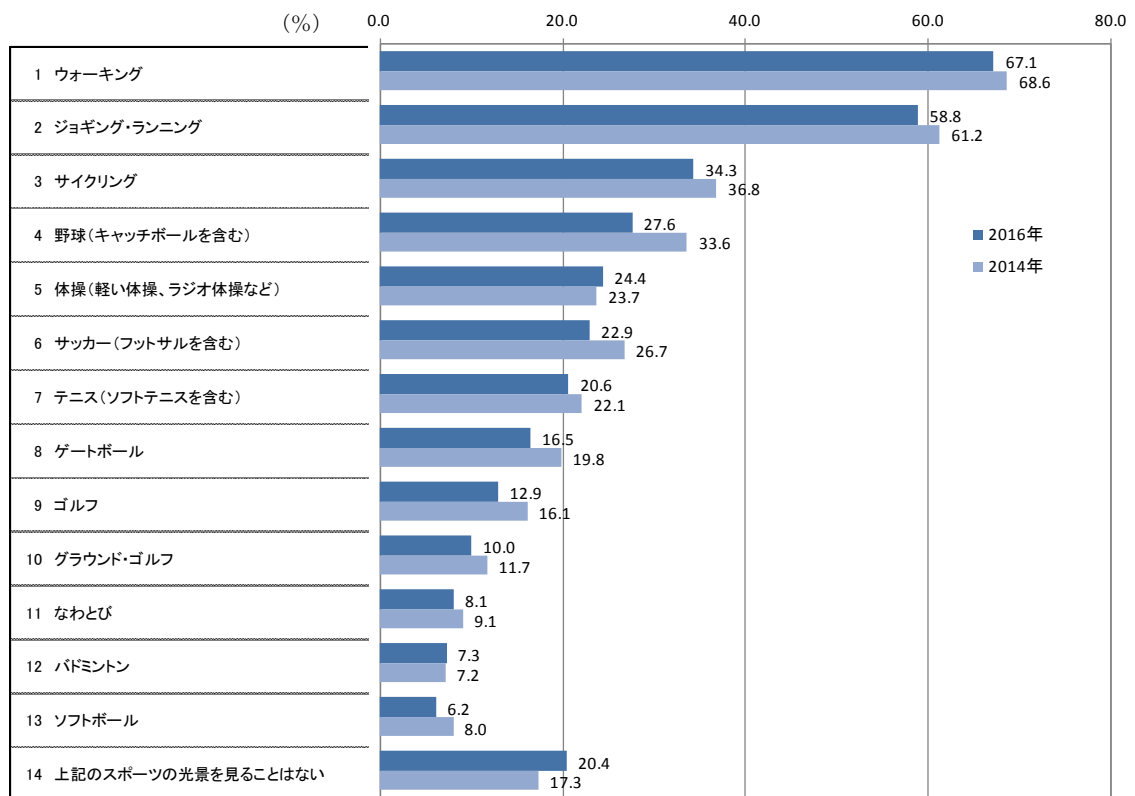


図表 3-4 リオ 2016 パラリンピック観戦後の意識変容

3. 障害者スポーツとの接点

1) スポーツを行う光景

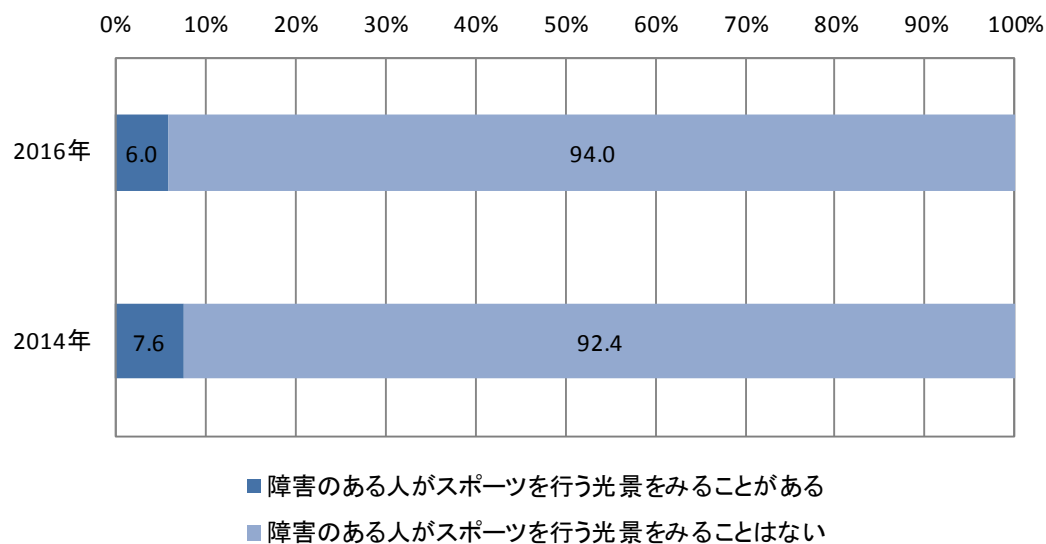
日常生活のなかで人々がスポーツを行う光景をみることがあるかについてたずねたところ、「ウォーキング」(67.1%)が最も多く、ついで、「ジョギング・ランニング」(58.8%)、「サイクリング」(34.3%)、「野球(キャッチボールを含む)」(27.6%)、「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」(24.4%)であった(図表3-5)。



図表 3-5 日常生活の中でみるスポーツの光景

2) 障害のある人がスポーツを行う光景・種目

日常生活のなかで、障害のある人がスポーツを行う光景をみることがあるのは、6.0%であった（図表 3-6）。そのなかで、みたスポーツの種目は、「バスケットボール」が最も多く、ついで、「テニス」「ジョギング・ランニング」であった（図表 3-7）。



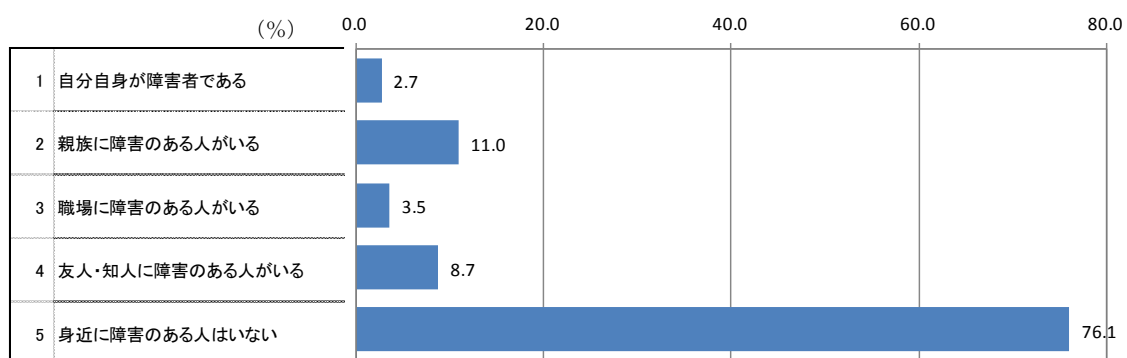
図表 3-6 障害のある人がスポーツを行う光景をみることの有無

NO	種目名	2016年(件)	2014年(件)
1	バスケットボール	28	50
2	テニス	21	22
3	ジョギング・ランニング	20	51
4	サッカー	9	16
5	陸上競技	8	-
6	水泳	8	12
7	ウォーキング	8	9
8	サイクリング	6	-
9	ゲートボール	5	6
10	卓球	5	4
11	野球	3	11
12	バレーボール	3	3
13	その他	23	25
	回答者数	152	157

図表 3-7 障害のある人がスポーツを行う光景でみる種目一覧

3) 身近にいる障害のある人

身近に障害のある人がいるかについてたずねたところ、「身近に障害のある人はいない」が76.1%で最も多く、ついで、「親族に障害のある人がいる」(11.0%)、「友人・知人に障害のある人がいる」(8.7%)であった。「自分自身が障害者である」は2.7%であった(図表3-8)。



図表 3-8 身近に障害のある人がいるか

4. クロス集計

身近に障害のある人の有無別にパラリンピック観戦形態についてみると、「自分以外の身近な人に障害者がいる」では、「テレビのニュース番組で観た」「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」「(テレビやインターネットの)その他の方法で観戦した」が1%水準で有意に高かった(図表3-9)。一方で、「身近に障害のある人はいない」では、「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」「インターネット動画でニュース番組を観た」「インターネット動画で選手・競技を紹介した特集番組を観た」「(テレビやインターネットの)その他の方法で観戦した」が1%水準で有意に低かった。

		全体	テレビで中継番組を観た	テレビのニュース番組で観た	テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た	インターネット動画で中継を観た	インターネット動画でニュース番組を観た	インターネット動画で選手・競技を紹介した特集番組を観た	(テレビやインターネットの)その他の方法で観戦した	テレビやインターネットで観戦しなかった
		(%)								
全体		2,060	30.3	46.8	13.0	1.5	2.0	0.9	0.6	39.5
あなたの身近に障害のある人がいますか。	自分自身が障害者である	55	23.6	47.3	10.9	3.6	1.8	1.8	1.8	43.6
	自分以外の身近な人に障害者がいる	446	△34.8	▲52.5	▲18.2	2.5	△3.8	△2.0	▲1.8	▼32.3
	身近に障害のある人はいない	1,567	△29.3	▼45.4	▼11.7	▼1.1	▼1.5	▼0.6	▼0.3	▲41.2

図表 3-9 身近に障害のある人の有無別パラリンピック観戦形態

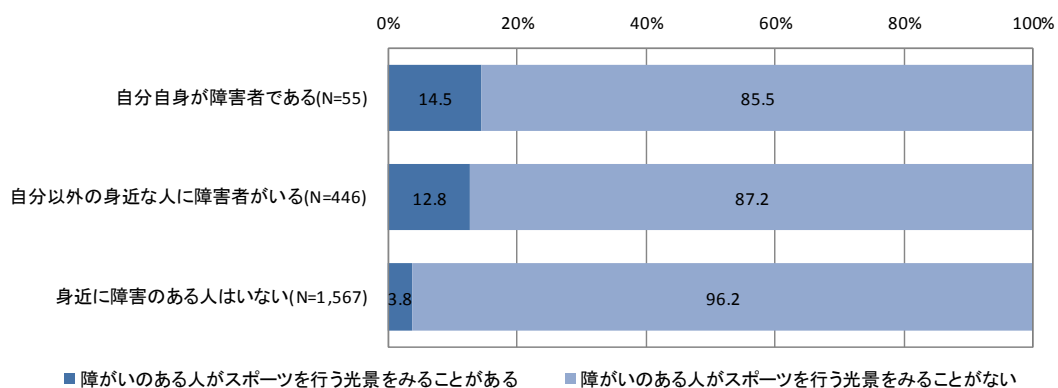
身近に障害のある人の有無別にパラリンピック観戦の感想をみた。「自分以外の身近な人に障害者がいる」では、「障害者スポーツを直接観戦したい」「障害者スポーツのボランティアをしたい」「2020年東京パラリンピックにボランティアとしてかかわりたい」「アスリートとして非常に優れていると感じた」「障害者への偏見がなくなった、身近な存在に感じた」「障害者と話がしたい、もっと知りたいと思った」が「よく当てはまる」において1%水準で有意に高かった(図表3-10)。

一方で、「身近に障害のある人はいない」では、「障害者スポーツを直接観戦したい」「障害者スポーツのボランティアをしたい」「2020年東京パラリンピックにボランティアとしてかかわりたい」「アスリートとして非常に優れていると感じた」「障害者への偏見がなくなった、身近な存在に感じた」「障害者と話がしたい、もっと知りたいと思った」が「よく当てはまる」において1%水準で有意に低かった。

		全体	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない
		(%)				
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> [全体との差の検定] 有意水準 高 低 1% ▲ ▼ 5% △ ▽ 10% ∴ ∵ </div>				
障害者スポーツをテレビやインターネットで観戦したい	全体	1247	5.9	37.1	44.4	12.6
	自分自身が障害者である	31	9.7	35.5	45.2	9.7
	自分以外の身近な人に障害者がいる	302	∴8.3	▲44.7	∴39.4	▼7.6
	身近に障害のある人はいない	921	▽4.9	▼34.7	∴45.9	▲14.4
障害者スポーツを直接観戦したい	全体	1247	3.8	22.5	55.2	18.5
	自分自身が障害者である	31	6.5	29.0	45.2	19.4
	自分以外の身近な人に障害者がいる	302	▲7.3	▲28.1	52.3	▼12.3
	身近に障害のある人はいない	921	▼2.6	▽20.6	56.0	▲20.7
2020年東京パラリンピックを直接観戦したい	全体	1247	9.1	26.1	46.6	18.1
	自分自身が障害者である	31	9.7	25.8	51.6	12.9
	自分以外の身近な人に障害者がいる	302	△12.6	29.5	45.0	▼12.9
	身近に障害のある人はいない	921	▽7.9	25.2	46.7	▲20.2
障害者スポーツを体験したい	全体	1247	4.3	16.8	54.1	24.8
	自分自身が障害者である	31	0.0	19.4	51.6	29.0
	自分以外の身近な人に障害者がいる	302	∴6.3	▲24.2	51.7	▼17.9
	身近に障害のある人はいない	921	3.8	▼14.3	54.8	▲27.0
障害者スポーツのボランティアをしたい	全体	1247	3.9	17.1	56.8	22.2
	自分自身が障害者である	31	3.2	19.4	51.6	25.8
	自分以外の身近な人に障害者がいる	302	▲8.3	△21.5	53.3	▽16.9
	身近に障害のある人はいない	921	▼2.5	▽15.5	58.0	△24.0
2020年東京パラリンピックにボランティアとしてかかわりたい	全体	1247	3.3	17.2	52.7	26.9
	自分自身が障害者である	31	3.2	16.1	48.4	32.3
	自分以外の身近な人に障害者がいる	302	▲7.3	19.2	51.7	▽21.9
	身近に障害のある人はいない	921	▼2.0	16.4	53.2	△28.4
アスリートとして非常に優れていると感じた	全体	1247	28.2	41.3	22.3	8.2
	自分自身が障害者である	31	25.8	41.9	25.8	6.5
	自分以外の身近な人に障害者がいる	302	▲37.4	42.1	▼16.6	▼4.0
	身近に障害のある人はいない	921	▼25.4	41.0	△23.9	▲9.7
障害の有無にかかわらず、スポーツと一緒にできると感じた	全体	1247	21.6	43.4	25.7	9.4
	自分自身が障害者である	31	22.6	45.2	25.8	6.5
	自分以外の身近な人に障害者がいる	302	△27.2	46.0	∴21.9	▼5.0
	身近に障害のある人はいない	921	▽20.0	42.2	26.8	▲11.0
障害者への偏見がなくなった、身近な存在に感じた	全体	1247	15.4	46.3	29.0	9.3
	自分自身が障害者である	31	9.7	58.1	25.8	6.5
	自分以外の身近な人に障害者がいる	302	▲21.2	48.3	∴24.8	▽5.6
	身近に障害のある人はいない	921	▼13.7	45.4	30.3	△10.6
障害者と話したい、もっと知りたいと思った	全体	1247	7.9	34.8	46.3	11.0
	自分自身が障害者である	31	0.0	45.2	41.9	12.9
	自分以外の身近な人に障害者がいる	302	▲12.6	▲43.4	▼38.1	▼6.0
	身近に障害のある人はいない	921	▼6.6	▼31.8	▲48.9	▲12.7

図表 3-10 身近にいる障害のある人の有無別にみる観戦後の感想

身近に障害のある人の有無別に、障害のある人がスポーツを行う光景をみることの有無についてたずねたところ、「身近に障害のある人はいない」では、「障害のある人がスポーツを行う光景をみることもある」が3.8%と非常に低かった（図表3-11）。



**図表 3-11 身近にいる障害のある人の有無別
障害のある人がスポーツを行う光景をみることの有無**

日常生活の中で障害のある人がスポーツを行う光景をみることの有無についてみると、すべての項目で、日常生活の中で障害のある人がスポーツを行う光景をみたことがある人の方が、パラリンピックをテレビやインターネットで観た人が多く、「テレビのニュース番組で観た」以外の項目で有意差がみられた（図表3-12）。

	全体	テレビで中継番組を観た	テレビのニュース番組で観た	テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た	インターネット動画で中継を観た	インターネット動画でニュース番組を観た	インターネット動画で選手・競技を紹介した特集番組を観た	(テレビやインターネットの)その他の方法で観戦した	テレビやインターネットで観戦しなかった	
		(%)								
全体	2,060	30.3	46.8	13.0	1.5	2.0	0.9	0.6	39.5	
あなたは日常生活の中で、障害のある人がスポーツを行う光景をみることがありますか。	ある	123	▲49.6	47.2	▲22.8	▲10.6	▲10.6	▲4.9	△2.4	▼25.2
	ない	1,937	▼29.1	46.8	▼12.4	▼0.9	▼1.5	▼0.7	△0.5	▲40.4

図表3-12 日常生活の中で障害のある人がスポーツを行う光景をみることの有無別にみる
リオ 2016 パラリンピック大会の観戦形態

5. まとめ

公益財団法人日本財団パラリンピック研究会「国内外 一般社会でのパラリンピックに関する認知と関心」（2014）の調査によると、パラリンピックという言葉の認知度は、98.2%（「内容を知っている」77.1%、「見たり聞いたりしたことがある程度」21.1%）と非常に高い数字を示していたが、今回の調査結果からは具体的な選手名や競技に関してはほとんど知られていない現状が示唆された。調査の回答対象とした40名のパラリンピアンのうち、最も知られている選手は「国枝慎吾」であった。「知っている」「聞いたことがある」をあわせると、約3割の認知度を示した。これは、国枝選手がこれまでに年間グラウンドスラムを合計5回達成するなど、世界的知名度が高いこと、調査時においても7社のテレビコマーシャルに出演していることなどが後押ししていると考えられる。2位の「上地結衣」は「知っている」「聞いたことがある」をあわせると約15%の認知度であり、理由は国枝選手と同様である。選手の実施競技についてみると、1位の国枝選手の正答率は79.2%、2位の上地選手の正答率は56.4%であった。必ずしも選手名とその選手が実施している競技が一致していない現状も明らかになった。

テレビやインターネットでのパラリンピック観戦状況を見ると、「テレビで中継番組を観た」が22.3%から30.3%、「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」が6.5%から13.0%と前回調査（2014年度）から大幅に増加した。また、「テレビやインターネットで観戦しなかった」が41.8%から39.5%と僅かだが減少したことを鑑みると、前述のようにリオ大会を機に、メディアなどにおいてパラリンピックや障害者スポーツを取り上げる放送時間が増加し、それらを目にする機会が増えたことが認知度向上の一つの要因と推察できる。また、観戦種目についてたずねたところ、15.2%が「わからない」と回答した。テレビで放送されている番組がたまたま該当番組であり、“受動的”に観戦していることが推察される。

観戦後の意識変容については、約7割が「アスリートとして非常に優れていると感じ」ており、今後、障害者スポーツの観戦機会やパラアスリートと接する機会が増えていくことで、アスリートとしての能力の高さに気付く人が増える可能性が示唆された。前述の公益財団法人日本財団パラリンピック研究会の調査では、東京2020パラリンピックの観戦意向についてもたずねており、「会場で直接観戦したい」が15.4%であった。本調査で「2020年東京パラリンピックを直接観戦したい」が35.2%（よく当てはまる9.1%、やや当てはまる26.1%）であったことから、2020年に向けて、直接観戦への期待は高まっていると思われる。ただ、前回調査（2014年度）がロンドン大会終了2年後の実施、本調査（2016年度）がリオ大会終了2ヵ月後の実施とあり、回答者にパラリンピックの印象が強く残っている可能性も否定できないことから、今後、継続的に注視していく必要があるだろう。

（小淵和也）

認知度順位	氏名	競技名	出演テレビコマーシャル企業
1	国枝 慎吾	車いすテニス	アットホーム 日本生命保険 東京都 全日本空輸 独立行政法人日本スポーツ振興センターtoto 本田技研工業
2	上地 結衣	車いすテニス	東京都 JAL
4	一ノ瀬 メイ	水泳	トヨタ自動車
9	藤本 怜央	車椅子バスケットボール	サントリー
10	山田 拓朗	水泳	NTT docomo
13	藤井 新悟	車椅子バスケットボール	サントリー
14	鈴木 徹	陸上競技	東京都
16	道下 美里	陸上競技	トヨタカローラ山口
21位以下	大西 瞳	陸上競技	パナソニック
21位以下	香西 宏昭	車椅子バスケットボール	JAL
21位以下	鳥海 連志	車椅子バスケットボール	味の素
21位以下	津川 拓也	水泳	全日空
21位以下	豊島 英	車椅子バスケットボール	サントリー

(参考)主なパラリンピアンテレビコマーシャル出演

(当財団によるインターネット調べ。2016(平成28)年12月13日現在)